

会長短信

政 志 郎

3月5日、新島会館で2005年度総会がありました。OB、OGの出席者が少なく寂しい総会でした。

ここ数年、部長先生・監督・コーチの指導の賜物と、現役の自覚等で部員数が20名弱となり、特に新4年生旧主将・主務が力を発揮してくれチームワーク良く、後輩も育ててくれている。そのリーダーシップは高く評価したい。昨年は同立戦で久し振りに勝ってくれた。立命館大学には、まだまだ借りがあり、連戦連勝して欲しいものである。

「数は力なり」部員数増加に伴う現役諸君の発想力も数年前に比べ飛躍的に変わり、スポーツクラブとして正常化されつつあります。学生諸君は現状に甘えることなく全国大会に出場すべく技量を磨き、部員増強のために新入学生の獲得活動にも知恵を出し、1学年15名体制を確立願いたい。

75周年事業について

同志社大学航空部は昭和11年12月4日、同志社大学航空研究会として誕生して、「日本学生航空連盟」に加入した。創部6～7年の間に目を見張るばかりの発展を遂げ、橋本・牧野先輩が全国制覇された。

戦後の昭和27年6月1日、同志社大学航空部は再開した。

75周年は平成23年になる。5年先ではありますが、航空部の歴史の節目であり、区切りであります。伝統に輝く航空部の歴史を具体的な形に表して次の世代に申し送ることは、現在航空部に関わりのある我々の義務であり、責務ではないかと思えます。

昨年の翔友会総会で実行委員長に新庄博志先輩(62年卒)が任命され、胎動を開始しました。

今年の総会には、新庄先輩の考え方を報告され、承認されました。諸先輩方々の絶大なご賛同とご協力をお願い申し上げます。翔友会幹事諸兄にも色々負担をおかけします。また、バックアップして新庄先輩を盛り立てて歴史と伝統のある航空部が新しく再活性化され、夢を実現出来そうな記念事業にしたいと思えます。

75周年行事は同志社大学航空部が行うものですが、現役・OBが一体となり、大学当局の支援を得ながら完成度を上げていかねばならないものではないかと考えます。

航空部・翔友会共、現状では色々問題を抱えています。

現役は部活と学業、部員不足、練習に伴う費用の問題、練習場が遠隔地で時間ロス等々。部長先生・監督・コーチ・学生が中期的訓練計画を立案して、将来の航空部の姿を明確にして問題点を掴み、対策立案と翔友会への支援要請をして欲しい。

翔友会はOB会費回収率の低下が如実に現れた。OB会への求心力の不足。何か魅力のある翔友会への脱皮、来て楽しい総会等、幹事会の改革無しには75周年事業が完成出来ないのではないかと危惧しています。

何れにしても、75周年に向かって現状打破し、活性化した航空部になり、歴史と伝統を次世代に引き継ぎたいと考えます。

部長短信

山口博司

最近の部員を見ていると、ずいぶん明るくなった。こう感じられるようになりました。部員の数も増え、各々が新しい志を持つようになってきたのではないかと思っています。戦績も向上してまいりました。いわゆる、部全体が上げ潮に乗ってきたようです。ぜひこの機を捉えて、さらなる飛躍を期待しています。

昨年も、航空部のXプロジェクトとしての、鳥人間参加を果たしました。このクラブのよい所は、寝食を共にし、苦労を分かち合い目標に挑む所にあります。この意味でも、鳥人間参加プロジェクトは、部員の連帯感、一体感をはぐくむ大変良い試みであると考えます。当然、競技スポーツとしてのグライダーは、これ航空部の基本でありますし、この基本的な方向は、これまでとまったく変わりありません。しかし、Xプロジェクトもまた、同じ挑戦でもあり、大いにガンバッテ頂きたいと思います。多様性は、これからのクラブのあり方でもあるように思っております。

一方、昨年はグライダーに関わる事故が頻発しました。速やかに、我がクラブの安全性につき総点検するように指示をいたしました。ただし、最も重要なことは、慣れによる気の緩みです。いつも事故と隣り合わせにあることの認識と、平素の意識で安全を共に守って頂きたいと思います。諸兄に置かれましても、この点も含め、ご指導のほどお願い申し上げます。

今年度も、航空部への皆様方の暖かいご支援、ご鞭撻をお願い申し上げます。

監督短信

森 川 泰

これまで4年間、私が監督、山口教官がコーチということで他の教官に協力して頂きながらクラブの指導にあたって来ました。しかし最近、山口教官が仕事で多忙を極め、学生の指導に十分力を発揮してもらえなくなって来ていました。そこで、現在活動している教官の間で相談し、指導陣の体制を見直した結果、監督は引き続き私がやらせて頂くことになり、コーチは玉井教官にお願いすることになりました。航空部創部70周年となる今年からこの新しい体制で他の教官と協力しながら頑張っていきたいと思っておりますので、どうか宜しくお願い致します。

皆さんご存じかと思いますが、去年は学連内で2件の死亡事故、グライダー界でも多くの事故が発生した受難の年でした。これを受けて学連内ではフライトの自粛、安全対策の検討が行われました。学生にとっては死亡事故というショックの上に、十分なフライトが出来ないという大変な1年となりました。その結果、学生のフライトの発数は伸びず、自家用ライセンスを取得した学生もいませんでした。なんとかクラブ全体のレベルアップを図り、東海関西競技会ひいては全国大会に学生を出場させたいという目標は叶えることが出来ませんでした。大変残念でありましたが、そんな中でも喜ばしいこともいくつかありました。一つは多くの新入部員を迎えることが出来、部員数が総勢20名程度に増えたことです。これは上級生が頑張ってくれたこととともに、一年生がグライダーに大きな興味を持って入部してくれた結果であり、クラブが活性化する要因になりました。一時期と比べるとかなりしっかりとしたクラブ活動が行われる様になって来ています。合宿の時にランウェーに、或いは普段の活動を見に部室に顔を

出して頂ければ、OBの皆様にも実感して頂けると思います。是非、学生を応援する為に足を運んで頂ければと思います。もう一つは何とか同立戦を開催することが出来、そして久しぶりに同志社が勝利するという結果を残せたことです。競技のレベルは決して高くなかったものの、両校の学生が力を振り絞り接戦を演じました。I部競技選手の中村君やII部競技で優勝した前田君ら参加選手全員の活躍で何とか我が校を総合優勝に導くことが出来ました。

部員数も増えクラブの体勢も整って来ましたし、今年は創部70周年ということもあり、更なる飛躍をして行かなければならないと思っています。目標として全国制覇を掲げたいところですが、まだまだそれだけの力を持っていないというのが現実です。従って、全国制覇という遠い目標を目指しつつ、今年は東海関西競技会優勝、そして全国大会への出場を目標として行きたいと思っています。その為には自家用ライセンス保持者を最低2名以上育成し、同立戦でも連覇しなければいけないと考えています。勿論、新人戦でも優勝を狙って行きます。これらの目標を達成する為には学生諸君の更なる努力が必要です。同志社航空部の中での活動に留まらず、学連内を見渡した幅広くより活発な活動を心掛けて貰わなければなりません。また、立ち直りつつある同志社航空部には教官を含むOBの皆さんの応援が是非とも必要です。どうかこれからもご協力を宜しくお願い致します。

最後になりましたが、長年、学連や同志社航空部の為に力を尽くして頂いた北尾教官が他界されました。私個人も大変お世話になり非常に残念でした。心からご冥福をお祈り致します。